

第 3 回 全 国 在 宅 医 療 会 議 (平 成 29 年 11 月 8 日) で の 主 な 意 見

○ 在 宅 医 療 の エ ビ デ ン ス に つ い て

- ・ 多職種それぞれでエビデンスというものに対するイメージが違う。まずは、在宅医療のエビデンスに関する概念をまとめ、多職種が根拠ある情報を国民に情報提供することが必要ではないか。

(統 一 的 な 概 念 に つ い て)

- 職種間での共通言語が必要ではないか。
- 在宅医療は、全世代型の話であることを共通認識することが重要である。
- 「生活の視点を持ち、QOLを向上していくことが大切である」といった共通認識があればよいのではないか。
- ・ 人生のQOLと言う視点を、エビデンスの蓄積から取り入れていくことが重要ではないか。
- ・ 生活の満足度に関する評価といった、評価しにくい部分についてのエビデンスについて、重要度が増していると研究者も自覚しているところ。
- ・ エビデンスの構築するにあたり、どこまでできていて、どういったものが足りないのか整理ができていないので、目標設定する前に、まずはそこから議論すべきではないか。

○ 在 宅 医 療 の 普 及 ・ 啓 発 に つ い て

- ・ 在宅医療の話だけではなく、人生の最終段階に関する話まで踏まえたものである必要がある。
- ・ 現在は、病院から在宅医療への移行がほとんどである。在宅医療を進めるためには、病院医師が在宅医療について認識している必要があり、病院へのアプローチも検討してほしい。

○ 中 長 期 目 標 の 策 定 に つ い て

- ・ 小児在宅医療の課題についても触れて頂きたい。
- ・ 各団体からヒアリングをしてワーキングで検討してはどうか。
- ・ 事業計画は、単年度ごとではなく、先を見据えて計画を立て取り組むため、各団体が計画を立てるときは、数年計画としてたてたほうがいいのではないか。

○ 在 宅 医 療 の 量 的 整 備 に つ い て

- ・ 今後増加する在宅医療の需要に対して、どのくらい量を増やす必要があるのか、考えていく必要がある。
- ・ どのくらい増えるのか、データが市区町村宛に届いていないのではないか。地域

により大分差があるのではないか。

○在宅医療連携モデル調査について

- ・ リハビリテーションが対象となるか検討してほしい。

○その他

- ・ 人生の最終段階における意思決定のプロセスも、在宅医療において必要である。
「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を在宅医療でどう共有していくか検討することが必要である。
- ・ 緊急ショートステイやレスパイトを確保できているか、把握していくことが重要である。
- ・ 施設での在宅医療の実態を把握してもらいたい。
- ・ 連携医療・協働医療の視点を持った研究が重要になってくる。